

第 8 章

第 8 章 社会連携・社会貢献

(1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

1. 現状説明

開学以来、工学系の人材育成と研究を通じて地元の産業振興に寄与することを使命とし、基本理念に「地域社会との連携と貢献」を掲げ、地域貢献活動を行っている。

本学の中期目標においても地域連携に関する目標を「地域の現状を踏まえながら地域連携機構を中心に、地域に貢献する大学として、地域の再生及び発展につながる研究を教育及び社会貢献につなげながら進展させる」としている。

公立大学法人化を機に、地域への貢献を更に強力に推進することを目的に「地域連携機構」を創設し、これまで個別に活動していた、地域に貢献する複数の研究室を地域連携棟に集結させ、さらなる地域貢献に取り組む体制を整えている。

2. 点検・評価

①効果が上がっている事項

地域連携機構を設立したことで、地域連携に向けた戦略目標を共有し、各教員の間で切磋琢磨する組織風土が醸成され、外部資金獲得への絶え間ない挑戦を行い、獲得実績の飛躍的向上に繋がっている。

②改善すべき事項

特になし

3. 将来に向けた発展方策

①更に伸ばさせるための方策

現制度の深化に努める。

②改善方策

特になし

4. 根拠資料（大学基礎データ、刊行物、内部資料等）

(1) 公立大学法人高知工科大学中期目標	資料 14
(2) 地域連携機構パンフレット	資料 22
(3) 公立大学法人高知工科大学平成 21 年度業務実績報告書	資料 17
(4) 公立大学法人高知工科大学平成 22 年度業務実績報告書	資料 19

(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

1. 現状説明

「世界の未来に貢献できる研究成果の創出」、「地域社会との連携と貢献」という、研究・社会貢献の指針となる基本理念のもと、産・官との共同研究や研究成果等を活用した新技術の開発、新事業・新産業の創出支援、教育研究の成果を基にした公開講座の実施などにより、教育研究成果を社会に還元している。

新技術の開発、新事業・新産業の創出支援については、研究成果の技術移転も行っている。開学時より特許の取得を奨励しており、教員評価システムでも評価項目となっている。

また、地域連携機構は、高知県庁、市町村役場などの行政施策に、より直接的に寄与することを目指しており、これまで、黒潮町、梶原町、佐川町、中土佐町、香美市などの多くの市町村において、地域が抱える課題に対する解決策の研究や提案を行っている。

教育研究の成果を基にした公開講座の実施として、高知県立大学の永国寺キャンパスにサテラ

イト教室を整備し、平成 21 年度より開始した社会人対象の公開講座「地域活性化システム論」を定例化し、多くの社会人教育に貢献しているほか、講演会、シンポジウム、研修会などを開催している。なお、宇宙航空研究開発機構 JAXA および香美市と共催した「JAXA タウンミーティング in 高知工科大学（2010 年 11 月 7 日開催）」は 491 名の参加を得ている。

平成 23 年度からは、「高知工科大学地震・津波防災研究会」が組織され、スーパーコンピュータを用いたシミュレーションによる高精度な被害予測を行い、地元自治体への提言を行う活動も始めた。また、高知県、香美市と平成 20 年度から継続して協定を結び、学生・教職員一体となって自然環境保全のための活動を推進する「協働の森づくり事業」など、様々な分野で地域貢献を進めている。また、「地域教育支援事業」として、高知県教育委員会、高知県内の初等・中等教育機関と密接に連携し、県内の小学校・中学校・高校において、本学教員による訪問教育等を実施している。

国際交流事業としては、平成 16 年度文部科学省 21 世紀 COE プログラムに「社会マネジメントシステム学」が採択されたことを契機に設立された本学発の国際学会「社会マネジメントシステム学会」により、社会マネジメントシステム学に関する研究成果を国内外に定期的に発信している。その他、平成 22 年には 2 つの国際会議を本学で開催し、また平成 23 年には本学の博士後期課程特待生制度の修了生を集めた国際シンポジウム「第 3 回フロンティア・テクノロジー・シンポジウム」を本学において開催した。

地域の国際交流事業としては、毎年、高知県立岡豊高校のインターナショナルデーや近隣小学校の国際交流イベント、香美市一斉清掃に本学の留学生が参加しているほか、平成 23 年には大豊町星神社の秋祭りに神輿の担ぎ手等として参加したり、高知県観光政策課からの依頼により、高知県内の観光ルートの検証や外国人にわかりやすいパンレットや表示を考えるワークショップに参加する等の活動を行っている。

2. 点検・評価

①効果が上がっている事項

新技術の開発、新事業・新産業の創出の結果、「モノづくり連携大賞」「産官学連携功労者表彰 経済産業大臣賞」などを受賞するに至った。

講演会、シンポジウム、研修会等については、地域連携機構の設置主旨等を広く周知することを目的としたが、各催しへの集客も多く、効果は大きかった。

②改善すべき事項

特になし

3. 将来に向けた発展方策

①更に伸ばさせるための方策

地道な努力と成果の広報に務める。

②改善方策

特になし

4. 根拠資料（大学基礎データ、刊行物、内部資料等）

- | | |
|---------------------------------|-------|
| (1) 平成 22 年度高知工科大学概要 | 資料 1 |
| (2) 公立大学法人高知工科大学平成 21 年度業務実績報告書 | 資料 17 |
| (3) 公立大学法人高知工科大学平成 22 年度業務実績報告書 | 資料 19 |
| (4) 平成 23 年度高知工科大学概要 | 資料 98 |